



# あじさいネット OFF LINE 通信

## vol. 10



### 目次

#### 会員様の声

コムタ外科・整形外科	小無田 要	先生	2
宮村眼科	宮村 紀毅	先生	3
カナザワ内科クリニック	金澤 一	先生	4
田中医院	田中 博也	先生	5

#### あじさいな対談

上五島病院 八坂貴宏先生 × あおかた調剤薬局 鈴木智香子先生

#### 「あじさいネット」キーパーソンに聞く

長崎県福祉保健部 医療政策課 川良 数行 課長 8

長崎県医師会 あじさいネット事務局 9

あじさいニュース 10

#### 現在の運用状況

(平成 26 年 3 月 15 日現在)

患者登録数	34,209 名
(全件あじさいネット説明同意書取得済み)	
会員数	387 名
情報閲覧施設数	218 施設
(内、薬局数 40)	
情報提供病院数	22 施設

#### 賛助会員

- (株)ホギメディカル福岡営業所
- 日本電気(株) 医療ソリューション事業部
- (株)LSI メディエンス
- 富士通(株)長崎支店
- (株)NTT データ 公共システム事業本部
- 山下医科器械 (株)

#### 基本理念

地域に発生する診療情報を患者さまの同意のもと、複数の医療機関で共有することによって各施設における検査、診断、治療内容、説明内容を正確に理解し、診療に反映させることで安全で高品質な医療を提供し、地域医療の質の向上を目指すものです。



「診療支援」、「生涯学習」の観点から、これからのあじさいネットに期待

また、当院は有床診療所ですので、入院の際

「あじさいネットの特長は、「診療支援」と「生涯学習」の二本柱

連携の一つの手段としてあじさいネットを利用しています。初診の方で、既往歴がはっきり分らない場合も、あじさいネットに入会している病院に通院歴があれば、既往歴や病歴を把握できます。時間外でも、一度あじさいネットに登録している患者さんでしたら、拠点病院での治療内容を確認ができます。あじさいネットは、患者さんに同意をいただき申し込んで十五分位で連携がとれますので、タイムラグなく診療に活かせるので便利ですね。

あじさいネットの特長は、「診療支援」と「生涯学習」の二本柱

連携の一つの手段としてあじさいネットを利用しています。初診の方で、既往歴がはっきり分らない場合も、あじさいネットに入会している病院に通院歴があれば、既往歴や病歴を把握できます。時間外でも、一度あじさいネットに登録している患者さんでしたら、拠点病院での治療内容を確認ができます。あじさいネットは、患者さんに同意をいただき申し込んで十五分位で連携がとれますので、タイムラグなく診療に活かせるので便利ですね。

連携病院の情報を診療に活かしたい



・ DOCTOR'S PROFILE ・

S63年 大分大学医学部卒  
 同年 長崎大学整形外科学教室入局  
 H12年 コムタ外科・整形外科就職  
 あじさいネット設立時に入会

諫早市幸町

こむたかなめ

コムタ外科・整形外科 小無田 要 先生

TEL : 0957-22-2597

は、合併症等の観点から内科的疾患を考慮する必要があります。あじさいネットで、患者さんが通院されている拠点病院の診療情報を把握する事によって、【内科的な問題はどうか】【どういう治療をしていたか】【この方はリスクが高いので、前もってきちんと本人家族に説明する必要があるな】といった判断の確に出来ます。ですから、入院患者さんについては、むしろ整形以外の科を参考にする点は多いです。

生涯学習の観点から、今後のあじさいネットの展開に期待しています。当然、治療方法や治療内容、レントゲン所見等を見る事は勉強になりますが、今後は特にテレビ会議のインフラが生涯学習の一環となるシステムまで整備されればと思います。

具体的には、診療台の上のパソコンを介してテレビ会議やカンファランス中継が日常になることにより、将来的に、専門医の単位が取得できる教育講演などが受講できるような環境までシステムアップして頂ければと希望しております。

県央地域でのあじさいネットの展開

以前、私はあじさいネットの運営委員をしていました。委員会での専門的な話にはまったくついていけませんでしたが、松本先生や柴田先生方が熱く語られていたあじさいネットの将来的な展望が、まさに現実のものとなってきたことに感動を覚えます。県央から始まったあじさいネットは、今や長崎県内の多くの地域で情報が共有できる体制に拡が

り、所謂バーチャルメガホスピタルに成長してきました。

昨年十月にはついに健康保険諫早総合病院があじさいネットに参入され、県央地区としては喜ばしい限りですが、残念ながらいまだ画像が見られないという状況です。この点の早期解決を望んでおります。

「人と人は、ITネットワークだけではつながらないから。」

いうまでもなくITは非常に有益ですが、例えば、あじさいネットに登録しているからといって、お互いに意思の疎通をそれ以外に図ろうとしなかったら人間関係は希薄になっていきます。

Face to face (話す)とは基本です。Face to face でなくても、電話だとメールでは伝わらないニュアンスが分かりますよね。やっぱりいくらITが普及しても、それに偏ることなく、アナログな手段も大切にすることが、デジタル社会の弊害である人間関係の希薄さを少し和らげると思います。

● ● 小無田先生にQ&A ● ●

● ● 仕事スタイル ● ●

基本的に楽しく仕事したいですね。どうせだったら楽しくやらないと高いモチベーションが続かないでしょう。例えば、検査にしても、「これ面白いな」とか、「こういう検査したいな」と新しいことに挑戦しています。仕事に関わらず、何事も基本的に楽しくやりたい！そういうことです。

● ● 連携病院を教えてください！ ● ●

当院の常勤医師は、父（スーパーバイザー）と兄（外科・胃腸科）、私（整形外科）の三人です。連携病院は、国立長崎医療センター、健康保険諫早総合病院が主です。市立大村市民病院にも時折紹介します。膝の靭帯損傷といった特別な手術や、私の兄が長く勤務していたこともあり、長崎大学病院に紹介するケースもあります。手術後のリハビリを拠点病院と連携して行う際、あじさいネットをおおいに利用しています。



## 一医療人として、日々患者さんとそのご家族の傍らに寄り添い、看続ける。



## ・ DOCTOR'S PROFILE ・

S53年 長崎大学医学部卒  
H6年 カナザワ内科クリニック開業  
H23年よりあじさいネット会員

昭和五十三年に長崎大学医学部を卒業し第一内科に入局しました。その後、十四年間国立療養所川棚病院(現 長崎川棚医療センター)で主に神経難病の臨床研究に従事しました。

勤務医時代、「患者さんが家で過ごせる選択肢」があればとの思いを抱く

長崎川棚医療センターには神経内科一病棟と筋ジストロフィー病棟が二病棟ありますが、勤務医時代、患者さんは病院以外に過ごす場所がありませんでした。家に帰りたいと望まれても在宅医療を支援する仕組みもありませんでした。筋ジストロフィーの患者さんは、子供の時から入所し病棟のコミュニティで成人化していきます。この子らと大人になって発症、入所する方の価値観には大きな違いがあることに気付きました。それは大人になり入所する方は「一度社会に出ている」事でした。子供の時に、一般の地域社会に接する、家庭に接することで、人の見方、考え方は大きく変わると痛感しました。また、病院につきつきりになる家族も、患者さんが家で過ごせれば、家事や仕事ができますし負担も軽減します。

東 彼 杵 郡 川 棚 町

カナザワ内科クリニック

かなざわ

はじめ

金澤 一 先生

TEL : 0956-83-3727

このような経験から長期入院される患者さんの在宅医療の道を模索し始めました。

かかりつけ医として在宅医療を実践

開院当初から神経難病や寝たきりの方の在宅医療に取り組みました。当初はレスピレーター一個準備するにしても家族が購入して大変でしたが、介護保険が始まってからかなりやりやすくなりました。在宅医療では、定期的な訪問診療に加え、必要に応じて薬剤師、ヘルパー、医療機器の管理をする方々と協力して出来るだけ入院と変わらない治療を継続します。そして、容態に応じては川棚医療センターに入院の手配をします。あじさいネットは、入退院時の情報や全体の経過を把握する際に特に利用しています。あじさいネットを利用する以前は、川棚医療センター独自のネットワークである Human net\*で情報の遣り取りをしていました。

\* Human net : 川棚医療センターの ICT ネット

ワーク。平成二十三年あじさいネットに変更

“カンガルーのお腹の袋みたいに

安心できる医院づくり”を心に掲げて

二十年以上に渡り、二十四時間在宅支援診療所を続けてきました。昨年四月、自分の年齢のこととか諸事鑑みて二十四時間対応をやることを決断しました。幸いなことに患者さんとご家族の大半は、緊急時に私に連絡がついて、コストも下がるのであればと了承してくださいました。現在、昼間は定期的な往診に赴き、夜間は必ず連絡がつき対応する仕組みを整えています。その際のツールとして電話、ファックスと共にITネットワークやiPadも活用しています。

## ●● 金澤先生の記憶に強く残っている言葉 ●●

## ■ 先憂後楽

昭和55年に川棚病院へ赴任時、中澤良夫院長から何度も聞いた言葉。毎朝、病院の医局で朝8:30から30分間は2人だけだったので、幅広い話を聞けました。中澤先生が退職されたあと、偶然、川棚病院の廊下でお会いした時「今は楽だぞ、お前も頑張れ！」と声をかけて下さったことは今も鮮明に思い出せます。

## ■ まちがいを改める時に実力が試される

昭和57年頃、第1内科の実験室で倉田明彦先生から聞いた言葉。その当時は倉田先生、片峰先生、猪狩先生から指導を受けていました。この言葉は実験中ちょっとした手違いがあった時の、会話の一言。あらゆる場面で通用する本質に近い言葉だと思います。

## ■ ノブレス・オブリージュ

「位高ければ、務め重し」「秀たるもの務め」と訳され、率先して働く人が好む言葉です。

## ■ “4つのテスト” 所属するロータリークラブが提唱するテスト。

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなの為になるかどうか

また、予め対応する薬を預けるなどご家族の協力を得たり、地域の医療機関との連携強化など種々の工夫もしています。医療費が膨らみ続ける今、皆で効率良くコストを下げていく手立てを考えていく必要がありますが、在宅医療において、普通の診療所になっても以前と出来る限り遜色のない満足度を患者さんとその家族に与えながらも、コストダウンを図れた事を実感しました。現在、医療圏の広域化、機能分化等、医療を取り巻く環境は大きく変化していますが、今後ITの活用はコストダウンに大きく寄与する重要なツールに益々なっていくと思います。

この地に開院して、早いもので二十年が過ぎました。環境は目まぐるしく変わっていきませんが、時代は変わっても“カンガルーのお腹の袋みたいに安心できる医院づくり”を心に掲げて、これからも地域の皆さんの健やかな日常に貢献していきたいと思っています。

## 生まれ育ったこの街と共に、かかりつけ医として歩いていく。



## ・ DOCTOR'S PROFILE ・

H 8 年 東海大学医学部卒  
H14 年より田中医院勤務  
H25 年よりあじさいネット会員

## ・ あじさいネットを利用してみて ・

開業医と拠点病院を結ぶ一つの方法と思ひ、あじさいネットに入会しました。利用してみて、拠点病院のカルテや検査結果が閲覧できるので患者さん本人もしくはご家族からの相談を受けやすいですね。また、自分が紹介した症例が何日経過しても分からない状況がなくなったのでこちらの安心感もあります。

## ● ● 佐世保の地域医療の現状 ● ●

都市部では開業医は専門性に特化する傾向にあります。佐世保のような地方では、専門性よりも医者として出来ることをやってあげて、より専門領域の診察が必要と判断したら拠点病院に紹介する、そういったスキルが必要とされます。そのためには、当然、自分の専門領域以外のことも日々勉強しないとイケませんし、一例一例が己の糧となってきます。

あじさいネットを利用すると、紹介先での検査内容やその治療薬を使った根拠などが分かるので勉強にもなります。

佐世保市本島町  
田中医院

たなか  
田中

ひろや  
博也 先生

TEL : 0956-23-5308

佐世保では搬送するにしても、搬送先を見つけないのが大変で、なかなか夜間引受先が見つからないケースもあります。また、当院は有床診療所ですが常に満床ですし、在宅往診の必要性も増しています。今、地域の医療資源をどう確保していくか大きな課題になっています。

## ● ● 社会の動向とあじさいネット ● ●

● 存知の通り、佐世保は米軍関係や船舶関係の外国の方が多いため、当院にはアメリカ国籍を始めとする国外の方も受診されます。アメリカ国籍の方は、受診される際、現在に至る既往歴、治療歴、手術等が明記された紙カルテを携えて来院されます。

これまでの経過が分かるこのようなカルテは診療の際に非常に役立ちます。

このため、今後十年、二十年後には、『あじさいネット』現在に至るこれまでの全ての診療経過を網羅したカルテ』まで発展してほしいと思います。あじさいネットの登録医でしたら、あじさいネットに参加している患者さんのカルテは、長崎県内に限らず、例えば福岡から引越して来られた患者さんでも閲覧できるシステムに発展すれば、診療に有効ですし、間違いも起り難くなりますし、医療費の削減にもつながります。

個人情報保護の観点から、そのような閲覧の自由度の高いシステム作りが難しい事は充分承知しています。ただ、私たちは公的国民皆保険制度のもと、高額な健康保険料を国に納付しています。その事を踏まえると、診療情報開示のマイナスの側面だけでなく、開示による利点が多い側面も推して考え、患者さんにそのメリットを啓蒙していくことが必要だと思えます。

勿論、患者さんへの啓蒙の前に、私たち医療関係者が医療連携ネットワークシステムの有用性をもっと知ることが前提としてあります。

## 『私の開業医の原点は父です。』

二十五歳の時に自院に帰ってきました。父はこの地で外科医として開業して、姉が継承しました。幼い頃、一緒にご飯も食べた記憶がない位、父は忙しい人でした。そんな父の姿を見て育った私は、ある程度の奉仕の心を持ち、自分の出来る範囲尽くす姿勢がないと医者はやっていけないのだなど幼心に感じていました。

元々医者は病気を治すことが大前提であり、目標としてあります。でも、手出し出来ないものどかしい気持ちを抱えながら、最期を看取らないといけません。生物学的にいえば、生き物ですから死を迎えるんですよね。ただその死には色々あると思います。その時に、当たり前の人道的な今やれる事をやってあげる事が私たち医者の仕事だと思っています。

## ● ● 田中先生に伺いました ● ●

姉は皮膚科、私が外科、内科です。

病床数は19床あります。姉弟で経営していますが、特別仲が良いわけではないですよ(笑)。ただ、患者さんや周りの人に利点になるように、お互いに力を合わせるところは合せないと!

## ● ● 診療情報提供書は基本的に手書きです。 ● ●

パソコンで打ってもいいんですけど、僕、古いタイプの人間なんです。気持ちの問題を大事にしています。年賀状も手書きで届くとなんか嬉しいじゃないですか!

## ● ● 座右の銘は・・・特にありません。 ● ●

それぞれ言葉には意味があって一つに絞れない事と、今の自分に適した言葉は変わっていくものだから、臨機応変に捉えています。何事も臨機応変に立ち回らないと!ですね。



Suzuki Tikako Yasaka Takahiro

上五島の薬局でのあじさいネットの利用はトップクラス。連携拠点病院は、長崎県上五島病院です。今回、上五島病院 八坂病院長とあじさいネットをよく利用されているあおかた調剤薬局 鈴木先生にお話を伺いました。

あじさいネットを利用した医薬連携

**鈴木** ■八坂先生は薬局のあじさいネット参加を勧めていらつしやいます。私たちが薬剤師があじさいネットを利用する上で先生が期待されていることを教えてください。

**八坂** ■それには、まず今、国が勧められている医薬分業についてお話しする必要があります。医薬分業の一番の目的は『的確な服薬指導により、服薬の安全性と有効性を高める』ことです。そのためには薬剤師が患者さんの診療内容を詳しく知っている必要があります。病院では医師、看護師が患者さんの診療情報を記載していきますが、あじさいネットを介すると、それらの診療情報を閲覧できます。患者さんにより安全で有効性の高まるきちんとした服薬をしてもらいたい、そんな思いから薬剤師にもあじさいネットを勧めています。

**鈴木** ■確かにあじさいネットを利用すると服薬指導の質はいい方向に変わるのを実感します。私があじさいネットを利用

して驚いた一つに家族歴があります。薬剤師が家族歴を聞くことはあまりないのですね、医師、看護師の方が書いた家族歴はとても参考になります。

**八坂** ■家族背景、経済力も大切な情報ですからね。病院のカルテを参照しつつ、分からないところは、薬剤師が患者さんに聞く服薬指導は理想的ですね。

**鈴木** ■あじさいネットは副作用チェックにも利用しています。例えば、基礎疾患がある上に他のお薬が処方されている場合、基礎疾患も考慮した予測される副作用が分かれます。患者さんに「こういう副作用が出るかもしれませんよ。」と言ってお声かけするだけでも、副作用に気付けてくれる確率は上がりますよね。

**八坂** ■そうですね、それも大事です。我々医師は多忙な際、メジャーな副作用だけを言うことが多い。そうやって上手く医薬連携していくことで、患者さんに確実にプラスになりますね。

**鈴木** ■あじさいネットは薬剤師にも有効なので、広めていきたいのですが、なかなか簡単ではありません。他の薬剤師もやる気はあるようなのですが。

**八坂** ■やる気があつてスタートが遅くなる理由とかあるんですか？

**鈴木** ■あともう一步誰かが押してあげなきゃいけないのかな？

**八坂** ■私じゃないですよ。私はしょっちゅう言ってますもんね、宴会でも(笑)

**鈴木** ■私も、他の薬局の方に『あじさいネットいいよ』と言っています！

**八坂** ■これからの普及には、患者のメリ

ットを分かりやすく示していくことがカギになるんじゃないかな。そうすれば入会者も増えると思います。

**鈴木** ■あとは、現在準備されているiPadが普及すると、より身近になるかなと思います。今はパソコン一台、あじさいネットが占有していますから。

**八坂** ■私もiPadには期待しています。在宅医療で使ったり、病棟薬剤師が持ち回れたらすごく便利ですよ。

**鈴木** ■すごくいいと思います。そうしたら、皆さん、もっと手軽に使えて大変便利だと思えます。

医薬連携強化によるコスト削減

**八坂** ■医薬分業における「より高い有効性+安全性」の次のステップは「コスト削減」です。これにはジェネリックの推進と残薬調整の二本柱があると私は考えています。飲み忘れも非常に多いし、お年寄りでも二ヶ月分出しているのに、三ヶ月目に来院する方もいます。

**鈴木** ■それはありますね。

**八坂** ■当院では、ジェネリックについては、『医師のサインがない場合はジェネリックでも大丈夫』と一般と逆の仕組みにして使いやすくしています。更に医薬連携が進むと、当然ジェネリックも入れやすくなるので、今後、ジェネリックを増やす方針です。その際は薬局と病院が使うジェネリックを統一化する方向性を考えています。薬局の在庫管理もやりやすくなるし、無駄もなくなりますからね。

余った薬についても上手にコントロールしたり、あるいは入退院時の薬の変更

といった調整を確実に管理できると、費用対効果がでてきますよね。そこまでいけば、今、膨らみ続ける医療費を少しでも下げることができる。

そのためには、医薬連携、薬薬連携をもっと進めていきたいと考えています。

つながりが生む連携

**鈴木** ■長崎県内でこれだけ薬薬連携がうまくいっている地域は他にないと思います。規模がちょうどいいのでしょうか。

**八坂** ■そうですね。それと互いに顔が見える関係ですよ。調剤薬局の皆さん、病院の薬剤師、そして我々医師の顔が見える関係。ベースは顔が見える信頼関係ですよ！

**鈴木** ■確かにそう感じます。病院の薬剤師との連絡もしやすいです。ドクターにつながらない時も快く対応してくれます。八坂■内容はあとから確実に主治医に伝わるような仕組みですからね。

**鈴木** ■疑義照会や入退院時のお薬の調整もやりやすいです。

また、あじさいネットで処方内容のチェックをして病院に確認の電話をすることもあります。上手な連携で、且つあじさいネットも活用できているので、すごくいいと思います。

**八坂** ■それは、かなり効率的ですよ。

**鈴木** ■上五島は一つのゴール、患者さんが期待する質の高い診療・療養というゴールに向かって、色んな所が連携をしているのすごく感じます。上五島病院という組織だけ見てもそうで、医療スタッフとお話しするとすごくいいまとまりを

# あじさいな対談 in 上五島 - この島にある宝を医療の観点から語る。

感じます。

八坂 ■ 公的病院の使命は、すべては患者さんのため。職員には「看護師も薬剤師も医師と対等の立場になって、患者さんのためにどうしたらいいかを考えて仕事をしてください。」と基本方針でいつも言っています。それと、長期・中期・短期計画を常に言い続けます。だから、職員は病院の方針とか具体的に大体把握してくれていますね。

公的病院は決して大きな赤字になる必要はありませんが、上手に収支バランスをとるのは健全な運営には必要です。経済性と効率性を上げていく面で非常にあじさいなネットは強いわけです。

今、医療を取り巻く環境は厳しいですよ。患者さんへの医療サービスの質を維持しながら、効率化、コスト削減を図ることが、医療業界全体の課題です。

鈴木 ■ それに加え、上五島医療圏は県内一高齢化が進んでいます。全国に先駆けて高齢化の課題に直面していると思います。

八坂 ■ そうですね。上五島は将来の日本の姿でもあります。だからこそ、この地で時代に即した医療を展開する意味も大きい。連携にしても、あじさいなネットにしても、今、ここで展開されている医療が、未来の他地域のスタンダードになるんです。

## ● 人材育成について語る ●

鈴木 ■ 私の八坂先生のイメージは非常にオープン。やりたい事は声をどうぞ上げてやってくださいというイメージです。

ジェネリックの利用促進についてもそうですよね。それも、やっぱりスタッフなり、あと私たち薬剤師も信用してくれるからだと思います。

八坂 ■ 私たちの世代になると管理職としての役割と、五年、十年、二十年下に人を育てる責任を担っています。次世代にきちんとバトンタッチが出来て初めて健全な病院運営ができます。それに職員にはより良い医療人に成長して欲しいです。

そのためにスタッフのモチベーションは常に刺激し続けないと、人材育成は出来ません。

鈴木 ■ そういえば、以前、義弟（医師）が上五島病院で研修した際に、看護師のレベルの高さに驚いていました。

八坂 ■ 他の大病院と違って、当院では幅広くやりながらプラス専門もする環境です。医師も看護師も本人が気付かないうちに経験・勉強して伸びているんです。

鈴木 ■ 薬剤師もそうです。様々な諸事に揉まれながらも、色々な症例を広く勉強出来るから、自然とスキルアップしているんです。長い目で薬剤師をする中でスキルアップの一つとして、この島を上手く使ってほしいと思います。

八坂 ■ スキルアップの観点からいえば研修制度も充実しています。現在、当院は三名の専門看護師がいますし、今年も資格取得のために独自の奨学金制度で大阪に半年間派遣しています。こういった研修や学べるフィールドが充実しているのも、上五島の特色ですね。風林火山でも【人は城、人は石垣】とあるように、結

局、人なんですよね。人材育成には私が見ていないから、かなり力を入れていきます。

鈴木 ■ どうしても島は医療スタッフ不足になります。島にしかないメリットのアピールが足りないと考えています。

八坂 ■ それはあります。上五島で学べるメリットの幅広さを医療関係者に知ってもらうと同時に、一つ一つメリットを増やす努力をしていくことが大切です。例えば、二、三年の短期間でも勤務したら勉強になると聞いていても、実情が分からないので不安も大きい。それを払拭するだけのものも必要ですので、研修制度、スキルアップ手法を工夫して付加価値を上げていきたいですね。

鈴木 ■ 上五島に必ずしも長く居なくてもいいと思います。ただ、長く薬剤師を続ける中で、ここでの経験はその後の人生に大きな糧になると思います。やる気のある方は、この島は合っていると思います！

八坂 ■ 私もただ漫然と実務をこなすのではなく、医師としての総合力と、専門医としての能力の両方を会得したいモチベーションの高い医師を特に歓迎します。



## ● Message from ajisai people ●

### ■ 大洋堂薬局 道津慶子 先生（新上五島町青方郷）

八坂先生に勧められ、自身の勉強のためもあり入会しました。あじさいネットを利用すると具体的な数値などが分かりますので、例えば、ただ『数値が下がる』より『どれ位下がるか』患者さんに具体的に伝えることで丁寧な服薬指導につながっています。

顔なじみの方が多いので、あじさいネットの同意は大概の方が了承して下さります。また、あじさいネット未加入の方でも持参された検査データは見せて下さりますので、そういった意味ではあじさいネットは連携の一つの手段として捉えています。大切な事は患者さんが私を信頼して服薬指導を受けて下さることですよ。

（\*上五島では、大洋堂薬局、あおかた調剤薬局、そうごう薬局上五島店の3つの薬局が、あじさいネットに入会してくださっています。）



— 鈴木先生の仕事風景 —  
いつもの定位置で、写真撮影。  
トランシーバ・iPad mini・あじさいネットは、必須アイテムです。

# 「あじさいネット」キーパーソンに聞く

かわら かずゆき



## 長崎県 福祉保健部 医療政策課 課長 川良 数行 氏

「在宅医療」を支える「あじさいネット」に期待しています。

### 長崎県の医療の現状と課題

医療における、課題は常にあると思えます。県内の医療人材や医療の施設は、全国的にみると、いろいろなデータを見ても比較的恵まれていると思っています。しかしながら、長崎県は離島・僻地が非常に多く、その医療体制をどうするかということは、昔からの課題です。昭和40年代から医学修学資金制度を設けたり、離島医療圏組合を作ったりというところで、全国に先駆けた対応をしてきましたが、やはり、今以て課題は充分には解決されていないという認識を持っています。

### 長崎県の医療政策の取り組み

行政としては、医療の提供体制を整えるというのが課題になります。したがって、国の政策に則つとり、5疾病・5事業および在



### ◆◆あじさいネットに期待しています！◆◆

「在宅医療」は、医療政策において大きな課題の1つです。医師を始め、多くの職種の人達を繋ぐ、情報の共有化のための大変有用なツールとして、今後の更なる機能拡充を期待しています。

宅医療ということを中心的に取組んでおり、その中でも特に力を入れている事業が二つあります。

その一つが、がん対策です。75歳未満の年齢調整率の死亡率というものがありませんが、長崎県は全国でワースト9位というところで、がん対策は非常に大きな課題と考えています。

もう一つは、在宅医療です。団塊世代が後期高齢者に入ってくる2025年には、年間に亡くなる人が5000人増え、いわゆる多死社会を迎えます。現状では、医療と介護のベッドは多くの増床が期待できず、5000人の方々の行き場所がなくなつてしまいます。そのため、在宅医療が今以上に重要となつてきます。在宅医療とは、自宅だけではなく、グループホームや老人保健施設等も含めて「宅」と位置付けています。また、最近注目されておられます「サービス付き高齢者向け住宅」等も整備が必要で、このような整備を通して、増える5000人の受け入れ作りをしていくことが、現在の大きな課題です。

### 「あじさいネット」に対する長崎県のサポート体制および評価

あじさいネットが、大村市医師会、長崎医療センター、そして大村市民病院を中心に、関係の先生方によって作り上げられたということは、非常に素晴らしいことだと思つています。そして、このシステムを、

もつと広げていく必要があるということで、県として地域医療再生基金を活用し、様々な支援を行つております。

あじさいネットでのカルテ共有の仕組みが、利用者の利便性を考慮し、同じ画面で同時に両者が閲覧できるように、ホスティングシステムの開発支援を行つてきました。そして、情報提供病院を広げていくため、ゲートウェイサーバーの整備に対して半額補助も行いました。さらに、あじさいネットの従来の機能に加え、テレビ会議システムや遠隔画像診断、周産期の医療情報システム等、新しいシステムの整備補助も行つてきました。また、これらの基金事業を推進するために、あじさいネット拡充プロジェクト室の運営の支援を行つています。

おかげ様で、基金での支援を行う前は、主に大村と長崎が中心でしたが、現在は佐世保地区に広がり、県央や島原の一部、それから離島の方にも広がつております。これは、あじさいネットが医療の分野で市民権を得た証拠だと考えております。あじさいネットがこれ程の規模になつたにもかかわらず、情報流出等の事故が一件も起こっていないということは評価されていることだと思つています。

この基金は平成25年度まででしたが、27年度まで継続できることになりました。この期間を活用し、先ほどの面的な広がりと機能的な広がりを、さらに支援していきたいと思つています。このような取り組みは、行政が主体的に関わっていくと上手くいかないのではないかと危惧しています。行政は主役ではなく、あくまでもサポートをするという立場であることをわきまえた上で、引き続き支援を行つていきたいと思つています。

### ●●在宅医療を支える「あじさいネット」●●

地域医療連携においては、病院完結型医療から地域完結型医療へという大きな流れがあり、「地域完結型医療」への転換が医療政策の一つのキーワードとなつております。この「地域完結型医療」を実現するためには、各機関が協力して一人の患者をトータルケアしていくという地域医療連携が必須であり、大事なことは、それぞれの機関の人たちの間の意思疎通ということになります。医師の関わりはもちろんのこと、訪問看護師や薬剤師、栄養士や介護スタッフの人たち等、多くの職種の人たちが関わってきます。その人たちの情報共有のため、あじさいネットの機能が非常に役に立つということになります。がんや緩和ケアの場合も同様の流れになりますので、大変有力なツールであり、非常に有り難い機能だと思つています。ただ、あじさいネットがあるから地域連携ができるということではなく、「ベースに人と人の良好な関係があり、そこに便利なツールが加わることによつて、地域連携がより良く機能する」ということをわきまえておかなければならないと考えています。

### ●●川良 課長 Off Time の過ごし方●●



体を動かすことが好きなので、毎朝ジョギングで5kmほど走ったり、夏場は20~30回プールに通つたりしています。走るのは、もうほぼ毎日ですね。

- Q. 出場された大会などがありますか？
- A. 県庁の駅伝大会くらいですね。先日、福祉保健部チームで出場してきました。
- Q. アンカーを務められたんですか？
- A. いいえ、花の一区を走りました。
- Q. 水泳の大会にも出場されるんですか？
- A. 以前は、体育の日の市民大会に出場していました。諫早のミニリレートライアスロンにも、水泳で出場したことがあります。

全国各地を歩いて回ることも計画中の川良課長、貴重なお話ありがとうございました。



# 「あじさいネット」キーパーソンに聞く



長崎県医師会 あじさいネット事務局職員

みうら たかみつ  
三浦 貴光 さん  
そのだ しょうこ  
苑田 祥子 さん



## ◆あじさいネット事務局 三浦&苑田ペア◆

あじさいネットを支える、まさにキーパーソンの2人。  
三浦さんは魚釣りに、苑田さんはバスケットボールとビール！  
が趣味&休日のリフレッシュ方法とのことでした。

### 「あじさいネット」における

#### 長崎県医師会事務局の役割

あじさいネットの事務が委託される前は、このシステムがどのようなものなのか、あまり把握していませんでした。委託後、あじさいネットへの理解を深め、現在では県医師会としても、システムやネットワークのことで、何かあれば、あじさいネットの回線という話が出るまでになりました。

また、全国各地、例えば九州各県医師会情報システム担当理事連絡協議会や、東京での日医療情報システム協議会等、どこに行ってもあじさいネットの話が出てきます。全国でも注目され、地域医療連携の話も必ず出てきますので、県医師会の役員も、そのような会議に出席した時には、あじさいネットをまず例に挙げて説明をしています。長崎県と例えば「あじさいネット」というイメージが、広く浸透してきていると感じています。

#### 他県から見ても、あじさいネットの評価

は非常に高いと思います。全国各地にも様々なシステムはありますが、あじさいネットのように県下全域に大きく広がっているシステムは、今現在ほとんどありません。あじさいネットでは、NECと富士通の両方のシステムを同時に使用していますが、この点も大変優れていると思います。他県ではNECだけとか富士通だけとか、どちらかのシステムに偏っているのが現状です。あじさいネット

を参考にして、同じように県下全域に広げていこうとしているところも数か所あります。また、NECと富士通の両方のシステムを使用している県もありますが、その場合はやはり、費用がなくて相互接続ができていない等、様々な問題を抱えています。

あじさいネットのようなシステムは、全国で160件以上ありますが、その中で実際にきちんと稼働しているものは約50件程度です。それ以外はほとんど機能していないようです。結局は、地域医療再生基金等の補助金でシステムを構築しても、その後の継続は難しいというのが現状ではないかと思えます。

その点、あじさいネットは最初から会員の先生方からの会費で運営を行ってきましたから、今後とも継続していくことができるであろうと言われてます。システム維持のため、事務局としては、会費徴収をきちんと行っていかなければと思っています。あじさいネットに携わっている職員は私達だけではなく、田畑課長や五輪課長、経理など多くの職員が携わっています。そういう意味では、県医師会全体として関わっている部分は数多く、あじさいネットが主で動いていると言っても過言ではないと思います。

#### ●あじさいネットに携わってきて●

徐々に会員の先生が増えていくのと同様に、TV会議等のシステムも拡充され、業務内容は確かに増えてきました。また、ヘルプデスクがあっても、トラブル等が発生した時、先生方は最初に事務局に問い合わせられますので、その電話が時間を問わず数多くかかってきます。一日のほとんどを問い合わせへの対応にあてなければならぬ時もあります。それが、これも会員の先生が増え続けているためであり、これは大変喜ばしいことです。

また、最近特に、外部からの視察依頼が多く、その日程や人数の調整、それに付随する業務が増えてきました。視察の依頼先から、「事前にいるいる調べたいので教えてください」という内容の電話や、同行される富士通やNEC、他のベンダーさんからも問い合わせが入ってきます。ベンダーさん達は、ある程度知識を得た上で説明をしなければいけませんので、事前調査のため事務局へ頻りに問い合わせをされます。単純に1件の申込みがあるだけではなく、それに対し、関係する様々な人達から連絡が入りますので、以前に比べ、あじさいネット関連の業務が多くなっていますね。

#### ◆あじさいネットへの想い◆

全国でここまで有名になりましたので、これからもトップランナーとして走り続けていきたいです。それから、患者さんが実際にどのように思われているのかを聞いてみたいですね。このシステムを利用して本当に患者さんのためになっているのか、どういう時にどのように役に立っているのか、事務局では漠然としかわからないのです。また、会員の先生方にとっても、あじさいネットが患者さんのために大変役に立っているということを実感できれば、さらに利用価値が上がっていくのではないかと思います。

### 「あじさいネット事務局」からの 会員の皆様へのお願い

#### ①「あじさいネット」をもっとご利用ください！

たくさん利用していただいて初めて、「あじさいネット」の良さをより実感していただけたと思います。

#### ②ご異動が発生した際は、必ず事務局までご連絡ください！

施設で異動が発生した際に、事務局への連絡がなく、会費を請求させていただいて初めて、異動の事実が判明するケースが多発しています。必ずご連絡ください。

## 《あじさいニュース》

### ◆◇システム変更のご案内◆◇

■ 聖フランシスコ病院が平成 26 年 2 月 1 日より、NEC (ID-Link) から富士通 (HumanBridge) へ切り替わりました。

### ◆◇第 5 回あじさいネット研究会のご案内◆◇

あじさいネットは今年で十年目を迎えました。  
今年度は節目の年を記念して、あじさいネット発祥の地、大村市にて開催します。  
皆様のご参加を心よりお待ちしております。

■日時：5 月 10 日 (土) 14 時～18 時 (予定)

■会場：シーハットおおむら さくらホール

尚、懇親会を 19 時半より長崎インターナショナルホテルにて開催いたします。

\*詳しくはあじさいネット HP をご覧ください。<http://www.ajisai-net.org/>

### テレビ会議システム利用状況 《平成 25 年 4 月～平成 26 年 2 月末日現在》

昨年 4 月よりあじさいネット拡充事業の 1 つとして、テレビ会議システムの運用が開始されました。

- 4/20 (土) ■第 1 回長崎県医師会情報システム委員会 (参加:19 名)
- 4/20 (土) ■長崎県医師連盟 参議院議員選挙対策本部会議 (参加:24 名)
- 5/11 (土) ■第 4 回あじさいネット研究会 (参加:229 名)
- 6/12 (水) ■長崎県医師連盟 第二回参議院議員選挙対策本部会議 (参加:22 名)
- 6/19 (水) ■「警察等が取り扱う死体の死因又は身元の調査等に関する法律」に関する研修会 (参加:63 名)
- 7/27 (土) ■日医生涯教育協力講座セミナー「家庭血圧測定的重要性」共催:日本医師会/長崎県医師会/第一三共(株) (参加 74 名)
- 8/ 3 (土) ■第 116 回長崎県医師会産業医研修会 (参加:154 名)
- 8/ 4 (日) ■第 117 回長崎県医師会産業医研修会 (参加:127 名)
- 10/23 (水) ■第 2 回長崎県小児在宅医療技術講習会 (参加:110 名)
- 10/29 (火) ■糖尿病診療研修セミナー (参加:91 名)
- 11/13 (水) ■第 3 回長崎県小児在宅医療技術講習会 (参加:110 名)
- 11/24 (日) ■平成 25 年度がん検診精度管理医師等研修会 (参加者:157 名)
- 12/ 3 (火) ■平成 25 年度第 3 回長崎県医師会全理事会 (参加者:25 名)
- 12/11 (水) ■第 4 回長崎県小児在宅医療技術講習会 (参加:179 名)

#### H26 年

- 1/ 8 (水) ■第 5 回長崎県小児在宅医療技術講習会 (参加:113 名)
- 1/29 (水) ■郡市医師会感染症担当理事協議会 (新型インフルエンザ対策関係) (参加:22 名)
- 2/ 1 (土) ■日医認証局の運営に係る情報システム担当理事連絡協議会 (参加:14 名)
- 2/12 (水) ■第 6 回長崎県小児在宅医療技術講習会 (参加:100 名)
- 2/15 (土) ■日医生涯教育協力講座セミナー「糖尿病患者さんの食習慣を考慮に入れた薬物治療」(参加 133 名)
- 2/19 (水) ■オープンカンファランス/長崎大学病院 地域医療連携センター主催 (参加:約 25 名)
- 2/21 (金) ■新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく特定接種に関する説明会 (参加:291 名)
- 2/21 (金) ■郡市医師会国体準備に関わる担当理事連絡協議会 (参加:11 名)

### 離島医療・救急医療支援システム運用状況

離島医療・救急医療支援システムでは、簡単な操作で、画像と依頼文書の電送ならびに DICOM データを利用することで従来以上の高品質な画像の伝送が可能になりました。県内離島地域の 13 施設と連携するシステムとなっています。

《離島医療・救急医療支援システム 依頼件数 平成 25 年 4 月 15 日～平成 26 年 3 月 20 日現在》

H25 年									H26 年		
4/15～ 4/30	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3/1～ 3/20
11	20	15	30	15	24	28	22	21	30	15	18



# HOGY®

## 一步先の手術室環境づくりをお手伝いします。

ホギメディカルでは、不織布・キット製品など感染対策製品および理想的な病院経営を総合的にサポートする手術管理システムをご提供しております。

国内最大級の生産・滅菌システムと全国25箇所の営業所ネットワークによって安定的な製品提供ならびにお客様サポートで「安心」をお届けしております。

株式会社 **ホギメディカル**

本社：東京都港区赤坂2-7-7 TEL:03-6229-1300 FAX:03-6229-1344

# これからの「医療」を考えています。

Empowered by Innovation **NEC**

地域に分散した診療情報を統合して共有するネットワークサービスで地域医療連携をご支援します。

**NECの地域医療連携ネットワークサービス**

まずはWebで、詳細情報を。 [www.megaok.com/](http://www.megaok.com/) 【検索】

お問い合わせは、NEC(医療ソリューション事業部)へ  
〒108-8001 東京都港区芝五丁目7-1(NEC本社ビル) TEL. 03(3798)6756

<http://www.nec.co.jp/>

人と地球にやさしい情報社会へ

### ◆◇ あじさいネット拡充プロジェクト室からのお知らせ ◇◇

●● あじさいネット関係者の皆さまへ ●●  
H26年3月をもちまして退社いたしました。  
皆さまには大変お世話になりました。  
皆さまの今後の更なるご多幸とご活躍を心より  
お祈りいたします。

(事務・広報誌担当：馬場)

\*今号の表紙写真：自宅の庭にて撮影

お疲れさまでした。



Dr.松本



### ●● 新しいスタッフを紹介します ●●

昨年9月より、あじさいネット  
拡充プロジェクト室に入職いたし  
ました三好 恵美と申します。

長崎で生活するようになって、  
4月でちょうど1年になります。  
よろしくお願いいたします。



## あじさいネット入会方法のご案内

### 1. 入会

入会申込書を事務局宛に送っていただきます。  
所属医師会が入会している場合は個人の入会金は無料です。  
所属医師会が入会していない場合は、入会金が 50,000 円 必要となります。尚、初期設定費用として別途 30,000 円 を承ります。

### 2. 利用料金

月々 4,000 円 (レセプトオンライン請求も希望の場合は 5,000 円)  
と年 3,000 円 のウイルス対策ソフトライセンス料が必要です。ウイルス対策ソフトライセンス料とあわせて年間一括払いをお願い致します。

\*TV 会議システム及び、遠隔画像診断システムの回線のみのご利用の場合も同額の料金となります。尚、高品質遠隔画像診断システムでは別途診断料金がかかります。

### 3. 機器の設置

機器設置用ヒアリングシートに必要事項をご記入の上、事務局宛にファックスまたは郵送願います。  
シートに基づいて専門スタッフ (NTT フィールドテクノ九州) が設置、動作確認に参ります。

### 4. 運用講習会

利用法の運用講習会です。講習後『講習会受講修了証』とアクセス専用 ID と仮パスワードをお渡し致します。

### 5. 同意書と登録

患者さまにあじさいネットに関する説明を行い、あじさいネットに参加するための同意書をご記入いただきます。取得した同意書は診療情報閲覧を希望する情報提供病院の医療連携室宛にファックスで送付して下さい。約 10 分後に連携室より手続き終了の FAX が届きます。この段階で利用可能です。

### 6. あじさいネットポータルサイトへのログイン

アクセス専用 ID・パスワードにてあじさいネットのポータルサイトにログインし、同意を得た患者さまの診療情報を閲覧することができます。

\*手続き上、必要な様式ならびに同意書につきましては HP からダウンロードできます。



田中先生は、今回、中面記事にてご紹介しています。

〇4 コマ漫画作者：詫摩和彦 先生〇  
長崎市医師会所属  
長崎在宅 Dr. ネット理事

### 入会等に関するお問い合わせ先

あじさいネット事務局(長崎県医師会事務局内)担当：三浦、苑田  
電話 095-844-1111 FAX 095-844-1110

### 編集後記

「あじさいネット OFF LINE 通信」は今回で第 10 号を数えました。その間 2012 年 1 月の創刊以来、年 4 回一度も遅延なく発刊できました。これまでインタビューにご協力いただいた皆様方に御礼申し上げます。本広報誌は、「あじさいネットを上手に使っておられる会員の方々にインタビューしそのコツを広く伝え、まだ十分に使えていない会員がうまく使えるようにする。」とともに「県内の医療機関に送付しあじさいネットをより知ってもらい利用者を増やす」ことを目的に進めてまいりました。広報誌の創刊当時、情報提供病院が 14、閲覧施設が 139 だったのが現在では、情報提供病院 22、閲覧施設は 218 と情報提供病院は 8 病院、閲覧施設は 79 医療機関増えています。これには「あじさいネット OFF LINE 通信」も貢献しているものと思います。更に、情報発信を強化するため、4 月には、患者さん向けページも加え HP を新たにリニューアルしました。今後、機能拡充のみならず、情報発信も積極的に行っていきたいと考えております。まずは、リニューアルした HP を一度ご覧になって頂ければ幸いです。

\*あじさいネット HP <http://www.ajisai-net.org/>

あじさいネット OFF LINE 通信 編集長 松本 武浩

広報誌に関わるご意見・ご要望は、長崎県医師会 長崎県あじさいネット拡充プロジェクト室までお寄せください。  
電話 095-894-9655 FAX 095-894-9651 [ajisai-project@nagasaki.med.or.jp](mailto:ajisai-project@nagasaki.med.or.jp)  
最新の情報は、HP をご覧ください。 <http://www.ajisai-net.org/>